



自衛隊が区庁舎宿営を撤回!

党区議団の申し入れを受け

「いづれ学校にも迷彩服が」との区民不安の広がりの中で:

◆被災地での奮闘口裏に

6月に陸上自衛隊が練馬・板橋のまちを銃と迷彩服で行進し、さらに7月16・17日には、北区などの区庁舎に宿営する歩行訓練を計画しました。

平和委員会などが抗議と撤回を呼びかけ、共産党北区議団も7月3日に花川区長に区役所使用を拒否するよう申し入れました。

◆マスコミも「治安出動」を懸念する報道

その後東京新聞が「震災で活躍した自衛隊に追い風は吹いているが、区役所

を安易に『宿营地』化する

のはやり過ぎだ」「治安出動に転用される危険も否定できない」と報道。軍事的な思惑の強い訓練である事が鮮明になりました。

◆区議団の再申し入れの前に「宿泊の中止」連絡

党区議団は7月9日に、区長への再度の訓練中止の申し入れを行いました。その直前に自衛隊から「検討の結果、隊員の庁舎宿営は行わず、区に到着次第、練馬から車で迎えに来る」と連絡があったと報告されました。

その後、世田

谷区などでも、宿営訓練は断

念され改善され

ましたが、北区

議団と、そねは

じめ前都議は、

自衛隊単独の

街頭訓練自体

中止するよう

求めています。



7月9日、北区長に2度目の自衛隊歩行訓練中止を申入れる共産党区議団。

この申し入れの際、区側から自衛隊からの庁舎での宿泊を中止する連絡が報告された。

都は、尖閣問題で外交に口出す前に、防災や暮らしに役立つ仕事を!

6月都議会で、共産党は自治体の責任を投げずてた石原都政を追及し一部是正をかちとりました。

北区の被害予想が減る!?

都が見直した地震被害想定で、関東大震災時の強風を想定から外し、北区の震災被害予測が見直し前より減ってしまうなど問題を追及し、都も一部認めました。北区も防災計画での是正を検討中です。

都が初の除染工事実施

都議団が都立公園で25

万ベクレルの放射能汚染土壌を発見し対策を求めても都はがんめいに拒否。

しかしマスコミ公開測定でついに基準オーバーを実証し、7月に除染工事を実施させました。

公園の土壌を採取するそね前都議(中央)



区民の苦しみ届かない

●直接請求による原発再稼働を問う都民投票条例は、共産党などが原則採択を主張しましたが、自民・公明と共に北区の2人の民主都議も反対に回り否決されました。

●北区の4都議は、桐ヶ丘団地建替えや水害被害補償には物言わず。消費税増税の「分け前をよこせ」という石原知事には賛成。区民の苦しいくらしの声をぶつける議員が不在の現状です。

桐ヶ丘建替えの改善を北区長に要請

「都の計画は住いの建設
より人を収納するだけ」

6月23日結成された住民の会総会に出席のそね前都議



桐ヶ丘都営団地の安心で
きる建替え事業を願う団地
内外の住民で6月23日に
結成された「まちづくり住
民の会」は7月9日、花川
北区長に、都の計画に住民
の立場で改善を求める要請
を提出しました。区長は「私
が北区にきた頃、荒れてい
た桐ヶ丘が立派な団地にな
り、皆さん元気に暮らして
いるのが誇りです。その良
さを残せるようにしたい」
と答えました。

■**緑をどう残すか**
具体的要望について区長
退席後、佐藤まちづくり部
長が対応し、十数人の参加
者から、「道路ギリギリの高

十条地域の女性後援会に参加のそね前都議と
池内さおり12区予定候補



層住宅で風の害が心配」「高
齢者の道路横断の様子を見
ると新たな広い自動車道は
危険」「二人暮らしの住宅が
本当に狭い」など、こもごも
意見が出されました。

■**計画変更には慎重な姿勢**
佐藤部長は「皆さんの要望
を聞き、各部署で検討した
い」としながらも「緊急自動
車のためにも区道は必要」
「緑の散策路を確保したい」
と、道路見直しには慎重でし
た。

浮間では都営住宅建替え
で緊急に十四階を十階まで
下げる計画変更もあり、「住
民の会」は、最後まで住民要
望をかかげて都に求めています。

消費増税、原発、米軍増強許さない激流を起そう

そねはじめ奮闘記

* 7/5夕刻、王子駅で定例の宣
伝に池内・そね・宇都宮区議と
ともに13人が参加。にぎやかに消費
税増税反対を訴え、署名も数十人
集まりました。
* 7/6夜の首相官邸前に区議
団・池内とともに参加。雨降りの中
原発ノーを最後まで叫びました。

* 7/7 共産党の訴えに田端新
町にバイクで訪問。
* 桐ヶ丘健康友の会七夕会の
後、午後1時に豊島の消費税学
習会に。そして2時からの十条
の“女子会”に参加。
* 7/9 桐ヶ丘建替え問題で区
長に要望。



そねはじめ交友録<その四十二> 今焦点の“あるべき地域コミュニティー”をずっと と追いつけてきたOさん

小石川のクラス当時も切れ味の良い女生徒で、いま一番通じ合
うと私が勝手に思い込んでいるのが、某私立大教授のOさんで
す。

大学院から長く自治問題の研究機関に身を置き、現ポストにつ
いてからも一貫して地域住民の暮らしや地域社会の運営のルー
ルに関心を寄せ、アメリカのネイバーフッドという都市と日本の
代表的な都市を比較研究してきました。

国の政治と別に、日本人が真の政治的主体を確立するには地域
の町会や自治会レベルが変わることが不可欠と考える点で、私の思いも共鳴します。

Oさんのマンションからお台場の花火が見えるというのでクラス仲間が集まったけれど、飲んでしゃべっているう
ちに花火がなくなってしまった時も・・・。「あの時、君らは住民参加とかアソシエーションとか難しい話ばかりして俺の
お土産冷蔵庫にしまいっ放しだったよな～」と千葉からきたT君に恨みがましく言われました。

2011年4月、震災直後の時期に最近で一番人数の集
まったクラス会の集合写真(前列左から2人目がそね)



小石川高校022卒H組クラス会